平成２１年度の学校経営計画　　各分掌の目標達成のための具体的計画と達成状況

岡山県立高梁高等学校

本年度の学校経営目標	担　当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中　間　評　価		年　度　末　評　価		
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできたこと、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価	評価
① キャリア教育の視点に立った教育活動の工夫。	教務課	総合的な学習の時間におけるキャリア教育の取組みについて、成果を検証し、次年度からの計画を立てる。	･アンケートを実施・分析する。 ･次年度の計画を作る。	計画された取り組みは実施できている。アンケートは実施し、分析はこれから行う予定である。	B	アンケートは計画通り実施を終えた。 分析とそれを考慮した来年度の計画をこれから年度内に行う。	B	B
	生徒課	朝の挨拶運動を生徒会執行部を中心として学校全体へ拡大して実施する。	挨拶が出来る生徒が増加する。挨拶運動に参加した人数が増加する。	挨拶運動は昨年度並みの活動は出来ているが、マンネリ化傾向にある。参加人数の拡大についてなど、工夫する。	B	昨年並みの活動であったが、１年間継続出来たことの評価をしたい。 来年度も継続していく。	B	
	進路課	・「発見」というキーワードを掲げ、生徒と向き合い、先を見通した指導を行う。 ・面接等を通して、生徒・保護者との信頼関係を築き、一人ひとりの生徒にふさわしい進路実現をする。	年間を通して目標を教員が意識でき、生徒・保護者との信頼関係が築けている。	各クラスで生徒面談は３回以上、保護者面談は２回程度を実施する。「発見シート」を使って部の顧問の先生と生徒との面談を行った。	C	・学習実態調査の結果や進路調査の結果を利用して、年間４回の生徒面談を実施。また、年間２回の保護者面談（３年次生は３回）と３年次生は６月下旬に、１・２年次生は 10 月下旬に合同保護者会を実施。 ・進路通信の発行が昨年度より低調で保護者への情報の発信が後退した。	C	
	総務企画課	地域理解を深めるために、講演会を年２回実施する。（１年次生対象１回、２年次生対象１回）	70 ％以上の生徒が講演内容をよく理解した。	11/2（1 年次生対象）と 11/30（2 年次生対象）に講演会を実施する予定である。現在講師への派遣依頼を済ませている。	／	講演会後の生徒アンケートによると、いずれの講演会もよかったと感じている生徒が８７．９％で、本校や地域の歴史を知るよい機会となった。	A	
	厚生環境課	・美化係が活動の年間計画を作成し、校内の清掃状況を毎月１回点検する。 ・生徒ロッカーおよび下足箱上の整理整頓を呼びかける活動を継続的に行う。	定期的な点検・報告が行われ、ロッカーおよび下足箱上の整理整頓が図れる。	・係会を５回、月毎清掃点検を５回実施。 ・考査前の整理整頓の呼びかけ及び下足箱上の片付け４回、学校行事関連活動６回実施した。 ・係としての活動については理解でき行動できるようになった。クラスでの仲間作りや担任との連携が今後必要である。	B	・係会を６回、月毎清掃点検を７回実施。 ・考査前の整理整頓の呼びかけ及び下足箱上の片付けを６回、学校行事関連活動を８回実施。 ・１年を通して活動ができ、係としての役割については理解し行動できるようになった。積極的にクラスの美化に関わり、仲間作りや美化意識を高める点については今後の課題である。また、担任からの指導の連携が必要である。	B	
	文化課	広報活動を工夫し、図書室の利用を促進する。	年間の貸出冊数 5500 冊	生徒数減の割には、貸し出し冊数は昨年度とほぼ同数を維持している。	B	新しい取り組みとして、図書館のホームページを作ったり、図書委員会の活動を伝える新聞を発行したりして、広報活動を充実させることができた。貸出状況は昨年度並みだった。	B	
	家政科	「先言後礼」の挨拶の徹底と教室掲示。すべての科目、実習等で実施する。	気持ちの良い挨拶ができる。生徒アンケート 70 ％以上。	「先言後礼」の教室掲示及び「先言後礼」をすべて科目、実習等で実施。今後は気持ちの良い挨拶ができるよう声かけ等の工夫をする。２月に生徒アンケート実施予定。	B	「先言後礼」の教室掲示及び「先言後礼」の挨拶をすべての科目、実習等で実施したが、生徒のアンケートを実施したところ「先言後礼」ができていると答えた生徒は４９％であった。	B	
② 生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上。	教務課	・授業力向上のための研究と授業見学を実施する。 ・年間指導計画とシラバスの整備と活用を図る。	･授業見学の実施率 80 ％ ･全科で整備ができる。	・授業見学４月から８月までに実施した教員は 79%であった。 ・指導計画は一部の教科で整備できた。	B	・授業見学実施率は中間報告のとおりである。授業改善に結び付ける工夫が来年度への課題である。 ・指導計画は５つの教科が作成した。	B	B
	進路課	・教科指導研修講座に参加して指導力を向上させる。 ・実力考査の作問や研究体制の充実を図る。	･研修参加人数 10 名以上 ･実力考査問題の精度が向上する。 ･国公立合格数 60。	・７名が予備校の教員研修講座に、７名が教科指導パワーアップ事業等の公開授業に参加した。 ・卒業生の実力考査の得点率と進路を検証した。	B	・11 名が予備校の教員研修講座に、９名が教科指導パワーアップ事業等の公開授業に参加した。 ・実力考査の得点率と進路を検証する冊子を来年度初旬に発行する予定でその準備をおこなっている。 ・国公立の推薦・AO 入試の指導に力を入れ 16 名の合格者がでた。（昨年度は 10 名）	A	
	総務企画課	教員の授業力向上へ向けた授業評価アンケートの活用の工夫をする。	授業評価アンケートを活用した教員の人数が増加する。	11/9 ～ 11/20 に授業アンケートを実施予定。結果の活用は、授業連携部会と連携してこれから具体案を提示していく。	／	授業アンケートの活用の工夫として、教科内の平均値と比較した個人データをグラフ化して全教員に配布した。	B	
	国語科	様々な場面を捉え、豊かに表現する力を身につけさせる。定期考査・実力考査等で記述力を問う問題を一題以上入れ取り組ませる。	得点率 60 ％以上の生徒の人数２分の１以上	定期考査ではほぼ達成基準に到達しているが、実力考査では今一歩のところである。今後も授業等で表現する場面を設け指導していく。	B	達成基準となる生徒の人数は定期考査では 4~6 割と基準にほぼ到達、実力考査では 3~5 割の達成状況にあり、今後も様々な場面を捉え指導していく。	B	
	地歴公民科	小テストの実施方法と、その復習による基礎的事項の定着の指導法の工夫。	小テスト問題の再試得点率 80 ％	小テスト再試を行った場合、正答率は平均７割前後である。ただ時間が取れず再試までできていない場合もあり、今後の課題である。	B	小テスト実施後、特に結果が悪い場合に再テストを行った。正答率は中間評価の通りである。思考判断を問うような出題はしにくく、知識を求めるものに偏りがちである。	B	
	数学科	学力向上のための適切な課題（授業課題・週末課題など）の工夫と、家庭学習の充実を図る。	家庭学習時間１時間以上	各年次とも数学の１日の家庭学習時間は、ほぼ１時間である。課題は予定通り課せた。	B	各年次とも１日の家庭学習時間は、１時間弱だが、家庭課題に取り組みにくい生徒への対応が課題である。授業・週末課題は予定通り課せた。	B	
	理　科	基礎学力を定着させるために、提出物の徹底をはかる指導法の工夫。	提出率 90 ％以上･･･A 提出率 75 ％以上･･B 提出率 75 ％以下･･･C	未提出一覧の掲示や毎日課題での徹底、居残りの指示等各教員で工夫をした。 達成基準 A･･･３名　B･･･４名であった。	B	未提出一覧の掲示や未提出者への呼びかけを行い提出物の徹底に努めた。平均提出率は 88 ％であった。（達成基準 A･･･３名　B･･･４名）	B	

本年度の学校経営目標	担　当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中　間　評　価		年　度　末　評　価		
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできたこと、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価	評価
② 生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上。	保健体育科	１年次では基礎体力の向上をめざし、２年次から３年次にかけて生涯体育につながる選択制授業の新種目の充実をはかる。	新体力テスト体力向上率８０％	体力向上を意識した教材を導入し、準備体操などにも補強運動を取り入れた。新種目「ペタンク」を選択出来るようにした。	B	１年次では運動量の多い種目やヘルスランニングを取り入れた。選択制授業では新種目を取り入れた。来年度は体操服も一新して、生徒にとって魅力ある体育授業つくりを行いたい。	A	B
	芸術科	・自分にない新しい教材開発に取り組み、マンネリ化をを防ぐ工夫をする。 ・自己表現を自信を持って行わせる。	新しい教材開発ができる。作品や課題の発表が自信を持ってできる。	音・昨年度までのグループでの実技テストに変えて今年度は単独での歌唱発表を行った。後期では器楽の発表を行い、自分を表現することに慣れさせる。 美・今年度は、ステンドグラスや陶芸を取り入れた今後はリトグラフやエッチング等の版画をやる予定である。 書・今年度は創作の時間を多く設けた。	B	音・今までの流れの中で楽器の発表をさせることができた。自分の予測より速く進むことができ、生徒の能力の高さもわかった。単元の時間数と学習内容の盛り込み方を来年度の課題としたい。 美・リトグラフは予定通りできたが、エッチングは時間の関係でできなかった。ただ、リトグラフに関してはやるだけに終わったので、来年度への課題としたい。 書・創作は年度を通してよくできたと思うが、やはり基礎的な力がなければ完成度の低いものにしかならなかった。臨書と創作の割合がうまくいかず、時間的に苦しい１年になった。サンドブラスターなど新しい教材も取り入れることができた。	B	
	英語科	上位者の英作文の実力養成を全学年で継続的に行う。	対象者の模擬試験における作文の得点が上昇する。	各学年単位で実施中。指導の結果の評価ができる段階までには至っていない。	B	・生徒の取り組み方に個人差が大きく、用意した問題をすべて終了させた生徒もいたが、途中で中断する者も多かった。２次試験補習での作文の様子をみると、過去の３年よりは書けている者が多い。模擬試験の得点での検証はできなかった（３年） ・作文添削から、文法の演習という形にシフトして個人指導をした。１５名程度が現在も進行中である。 結果としての評価には至っていない。（２年） ・トップ層の生徒の作文力は飛躍的にのび、模擬試験の得点率にも現れた。しかし，他の生徒には少し難しかったようだ。（１年）	B	
	家庭科	・教科内で３年間を見通した指導計画等が共有できるよう資料等を整備・保管する。 ・ホームプロジェクトの指導を全教員がかかわり県大会出場を目指す。	･資料を作成し、保管する。 ･県大会出場。	・ホームプロジェクト県大会に出場でき、何らかの形で全教員がかかわることができた。 ・3 年間を見通した指導計画等の共有ができたが、細かい内容の検討を今後行いたい。	A	・指導計画については共有できたが活用までは至っていない。来年度の継続課題である。 ・ホームプロジェクトは、県大会へ出場し、優秀賞を獲得した。	B	
③ 生徒が自主性を発揮できる行事や委員会活動の工夫。	生徒課	球技大会・松籟祭を、生徒会執行部、各種委員会が計画・運営する。	生徒の活動が活発になり、生徒満足が向上する。	・松籟祭は、全校制作・入場者自由化などの企画運営ができ成功した。活動も充実していた。	B	・執行部活動が安定した。 ・執行部が中心となって、各種委員会の活性化を図っていきたい。	B	B
	家政科	家政科展や家庭クラブ活動など役員や委員を中心に新たな企画を立てさせ、運営実施させる。	生徒の活動が活発になり、生徒の満足度が向上する。	・家庭クラブ活動は役員を中心にパソコンカバーや七夕会などを企画立案して実施した。 ・家政科展は実行委員を中心に企画立案し、準備を進めている。	B	・様々な場面で生徒が主体となり、計画立案し実施することができた。生徒アンケートを実施したところ「生徒が主体となり活動できた」と答えた生徒が８７％いた。	A	
④ 地域への積極的な情報発信の工夫。	総務企画課	・高梁高校スピリッツを考案し、校内外で普及させる。 ・校内外の情報収集に努め、マスコミ等を利用した効果的な PR 活動を展開する。	地域へ情報発信できる。	・高梁高校スピリッツを「Challenge」とし、校外に向けては学校案内やオープンスクール等で情報発信できた。校内への普及は今一歩であり、現在校内掲示板を活用し、生徒への普及に努めている。 ・高梁高校通信３回、新聞折り込みちらし１回発行。マスコミ等の取材は１４回を数え、地域への情報発信に努めている。	B	・高梁高校スピリッツが、本校生徒や中学生に少しずつ浸透してきた。 ・中学生対象の高梁高校通信を季節ごとに計４回、地域対象の新聞折り込みちらしを１回発行し、本校の取り組みの様子を伝えることができた。マスコミ等の取材も２７回を数え、中高連絡会でのアンケートから本校の情報が中学校側によく伝わっていることがわかった。	A	A
⑤ 情報を共有し課題意識を持って取り組むことができる協働体制作り。	教務課	内規、申合せ、各種のマニュアルの内容を見直し、整理をする	･内規, 申合せを見直す。 ･成績処理と文書処理のマニュアルを整備する。	成績処理等のマニュアル整備は進んでいる。 内規の見直しは未実施。	B	・成績処理のマニュアルを整備した。 ・内規を改訂した。	B	B
	生徒課	部顧問の連携を図るため、部顧問会議の開催を実施する。	･部顧問会議を計画通り実施する。 ･部活動が活発になり、生徒の満足度が向上する。	部顧問会議を１回の実施。今後、実施していく。	C	・部顧問会議の回数が少なく、連携が不充分であった。。	C	
	進路課	・各年次進路通信を発行し、進路情報の共有化を図り、進路指導の方向性を共通理解する。 ・定例の進路課会議を行い課題の発見と対策を検討する	･時機を得た進路通信を発行できる。 ･週 1 回の会議ができる。	・進路通信は全体で 10 号発行している。 ・定例の進路課会議を 10 回実施している。課会議での情報交換は機能しており、課題を発見しようとする意識はできてきている。具体的な対策を立てるには至っていないので、後半はこのことに心掛けたい。	C	・進路通信は全体で 31 号発行した。 ・定例の進路課会議を 25 回実施した。課会議での情報交換は、課題を発見し、課題解決に向け具体的な取り組みを提案する場になりつつある。	B	
	厚生環境課	１年次生を対象に、生活アンケートを７月に実施し、学校生活への適応の実態を把握する。	アンケートの実施と結果の報告ができる。	計画通りに実施・報告ができた。	A			

本年度の学校経営目標	担　当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中　間　評　価		年　度　末　評　価		
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできたこと、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価	評価
⑤ 情報を共有し課題意識を持って取り組むことができる協働体制作り。	１年次団	学校において様々なケアを必要とする生徒を把握し、教員間での共通理解を図ることにより、生徒が気持ちよく学校生活を送ることができるように配慮する。	年次団会議において、生徒の情報交換を行う。必要に応じて、ペーパーによる情報交換を行う。	ケアが必要な生徒については、適宜情報交換をおこなうようにした。後期は職員朝礼の時間も活用していきたい。	B	今年度、１０回の年次団会議を開催し、毎回生徒の情報交換を行うことができた。職員朝礼においても適宜情報交換を行い、教員間において共通理解を図ることができた。	A	B
	２年次団	・年次だより等を発行し、保護者と学校の間で情報の共有化を図る。 ・必要に応じて年次団会議を開催し、情報の共有化を図る。	・考査毎に発行する。 ・月１回の開催を期す。	・年次だよりを４号発行し、達成率は 80 %である。 ・年次団会議は８月を除き毎月実施し、達成率は 100 %である。	B	学年検討会も含め、年間１０回の年次団会議を開いた。必要最低限ではあるが、情報交換は出来たと判断する。	B	
	３年次団	定例の連絡会（普通科クラス担任どちらか１名、進路課長、課長補佐、年次主任）を開催し、情報の共有に努める。	・週１回開催する。 ・会議のテーマを事前に伝える。 ・会議の内容を出席していない担任へ伝える。	・定例の連絡会をほぼ毎週開催できた。 ・会議のテーマを事前に予告できたのは３回ほどである。 ・会議の内容は、出席した担任から相担任へ伝達できている。	B	・定例の連絡会をほぼ毎週開催できた。 ・会議のテーマを事前に伝えることについては、３割程度達成できた。 ・会議の内容は、出席した担任から相担任へ伝達できている。	B	
	家政科	定期的に「家政科通信」を発行し、生徒や教員に情報が的確に伝わる工夫をする。	･通信が計画的に発行できる。 ･生徒・教員へ家政科の情報が伝わる。	・計画では毎月「家政科通信」発行の予定であったが、現在３号の発行となっている。今後継続的に発行したい。	B	・「家政科通信」の発行が計画的にできなかった。 ・毎週 1 回の家庭科会議は、計画的に行うことができた。会議では資料の事前配布などを行い、限られた時間での情報の共有に努めることができた。	B	